

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	グローバル・アカデミー		
○保護者評価実施期間	R8年1月6日		～ R8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 11人
○従業者評価実施期間	R8年1月6日		～ R8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の特性に応じた個別支援計画を柔軟に運用し、学習と生活の両面で着実な能力伸長を支えている点が強みである。	定期的なモニタリングやケース会議を通じ、多角的な視点から支援内容を不断に見直し、常に最適な支援への改善を図っている。	ICTによる支援記録の蓄積と共有をさらに進め、データ分析に基づいた客観的で根拠のある高度な支援体制を構築していく。
2	家庭と課題を共有し、一貫した支援を行う協働体制を築くことで、保護者が安心感を持てる信頼関係を構築している。	連絡帳や定期面談を通じ、保護者が気軽に相談できる心理的安全性を確保し、意向を汲み取った柔軟な支援を実践している。	今後は情報提供会や勉強会を定期開催し、療育への理解を共に深める機会を作ることで、家庭とのパートナーシップをより強化する。
3	感覚過敏や情緒面に配慮した環境調整を徹底し、児童が心身ともにリラックスして活動に集中できる安心な居場所を提供している。	クールダウンスペースの設置や視覚的な構造化を日常化し、過度な刺激を避け、落ち着いて過ごせる工夫を継続している。	今後は専門機関等との連携を強め、環境面に加え心理学的アプローチや多職種連携による多角的なサポート体制を充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内活動が中心となり、学校や地域資源との連携を通じた社会参加の機会提供が十分でない点が課題である。	日々の安定的な支援業務を優先するあまり、外部との接点を持つ時間の確保が難しく、組織的な連携が後手に回っている。	学校や地域団体との合同プログラムを計画的に取り入れ、社会体験の機会を創出するとともに、外部ネットワークを再構築する。
2	職員間で支援技術や知識に差があり、一貫した質の高い療育を提供するためのスキルアップ機会が不足している点が課題である。	直接支援業務を優先せざるを得ず、外部研修や内部勉強会へ充てる時間の捻出が困難で、知見の共有・継承が不足している。	年間研修計画の策定や事例検討会の定期開催、外部講師の活用等により、スタッフ全体の専門性向上と支援の標準化を推進する。
3	記録業務に多大な時間を要しており、職員が本来注力すべき児童支援に充てる時間を圧迫している点が組織的な課題である。	アナログな記録や手書き運用が残っており、情報の重複入力や転記作業が発生するなど、業務の効率化が十分に進んでいない。	ICTツールを全面的に導入し、記録の標準化と簡素化を断行することで、捻出された時間を直接支援や教材研究へ充てる体制を整える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 グローバル・アカデミー

公表日 R8年 3月 31日

利用児童数

11

回収数

11

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11				広々としていい	広々とした空間を活かし、今後も子供たちが安全にのびのび活動できる環境を維持します。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11				様々な支援をしてきている	多様なプログラムを継続し、お子様一人ひとりの成長に合わせた質の高い支援を提供します。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10			1		
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	11				その日の様子を伝えてきている	日々の状況を丁寧にお伝えし、ご家庭との連携を深めることで、より安心できる支援を目指します。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	1				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	1			すぐに相談に乗ってくれるので連絡しやすい	迅速なレスポンスを評価いただき光栄です。今後も保護者様が気軽に相談できる体制を継続します。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10	1				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10	1				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	1				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	1				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	1			すぐに連絡してくれている	緊急時等の迅速な連絡を徹底し、保護者様への安心感と透明性の高い運営に努めてまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	1				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	1			毎日楽しくっています	楽しく通っていただけることが何よりの励みです。本人の意欲を大切にした支援を継続します。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	1			大変満足しています	満足とお言葉に甘んじず、より一層のサービス向上と信頼される事業所作りに邁進します。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		グローバル・アカデミー			公表日		R8年 3月 31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		とても広々としている	広々とした空間を活かしつつ、活動エリアを明確に分けることで、より効果的な見守りと集中できる環境作りを継続する。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		運動の部屋、学習の部屋など、状況に合わせた空間になっている	部屋の使い分けをさらに徹底し、子供たちがスムーズに気持ちを切り替えて各活動に取り組めるよう環境構成を工夫する。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		全体会議を月一回必ず行っている	会議での情報共有を深め、各スタッフの気づきを即座に支援の質向上やプログラム改善へ反映できる体制を強化する。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		ZOOM研修なども利用している	オンラインだけでなく、必要に応じて外部の実地研修も取り入れ、スタッフ一人ひとりの専門性の幅をさらに広げていく。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8					

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		イベント企画などもスタッフ全体で行う	企画段階からの全スタッフ参画を継続し、より多様な視点を取り入れた魅力的なプログラムの開発と実施に努める。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		支援開始前には必ず当日の活動を確認する	事前確認の内容をさらに具体化し、その日の子供の状態に合わせた柔軟かつ的確な役割分担を徹底する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		LINEでの報告も行う	迅速な報告体制を維持しつつ、重要な連絡事項が確実に全スタッフに伝わるよう、情報の集約と確認のフローを再整備する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		下校時間の確認も必ず行う	学校との連携をさらに密にし、下校時間の変更等にも迅速に対応できる、より安全で確実な送迎体制を維持する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	3		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	4		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	3		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	4		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		直接、面談時に同意をいただくようにしている	面談時の丁寧な説明を継続し、保護者の意向をより深く汲み取った計画内容への改善と合意形成を常に心がける。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		半年に一回は面談を実施	定期面談を軸に、家庭での困りごとやニーズに寄り添ったきめ細かな家族支援とアドバイスを継続して提供する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	2	LINEで保護者の方へ連絡	迅速な情報提供を継続し、保護者が安心してお子様を預けられるよう、日々の活動や成長の様子をより具体的に伝えていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	4		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハットの記録もその都度報告、記入	記録の徹底に加え、定期的な事例分析を行い、事故防止のための具体的な改善策を現場で確実に共有・実行する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8				